

令和元年度 練馬区食育推進ネットワーク会議(第7期)第1回会議要録

- 1 開催日時
令和元年5月30日(木)午後2時30分～4時30分
- 2 開催場所
豊玉保健相談所 集団学習室
- 3 出席者
委員長 健康部長
副委員長 健康部健康推進課長
委員 阿出川委員、神谷委員、岸委員、堀委員、前田委員、戸田委員、園畑委員、白石委員、石井委員、北村委員
幹事 大泉保健相談所長、清掃リサイクル課清掃事業係主査、保健給食課学校給食係長、生活衛生課食品衛生担当係長、健康推進課歯科保健担当係長
事務局職員 健康推進課栄養指導担当係3名、健康推進課健康づくり係1名、豊玉保健相談所栄養担当係長、石神井保健相談所栄養担当係長
欠席委員 白鳥委員、谷内委員、井上委員、山田委員
- 4 公開の可否 公開
- 5 傍聴者数 0名
- 6 配付資料
資料1-1 練馬区食育推進ネットワーク会議(第7期)委員名簿
資料1-2 練馬区食育推進ネットワーク会議(第7期)幹事名簿
資料2-1 練馬区食育推進ネットワーク会議(1期～6期)の活動内容
資料2-2 「ちゃんごはん」事業について
資料2-3 ねりまの食育応援店事業について
資料2-4 ねりまの食育応援店登録状況
資料3 練馬区食育推進ネットワーク会議(第7期)活動について(案)
資料4 ねりま食育サミットについて
資料5 練馬区食育推進ネットワーク会議第7期1年目スケジュール案
- 7 会議要録

(1) 開会

(事務局) 本日、委員長、副委員長が緊急の議会对応のために、到着するまで司会を代行させていただきます。

それでは令和元年度第一回食育推進ネットワーク会議を開催致します。委嘱状は机上に配付させていただきました。委嘱期間は本日から令和3年3月31日までとなります。どうぞよろしく願いいたします。

次第の2については委員長が到着次第ご挨拶をさせていただきます。次に委員

の紹介ということで資料1-1の順に一言ずつ自己紹介をお願いいたします。

－委員からの自己紹介－

(事務局) よろしくをお願いいたします。続きまして庁内幹事の紹介をさせていただきます。

－庁内幹事からの自己紹介－

(事務局) 2年間、このメンバーでの会議となりますのでどうぞよろしくお願い申し上げます。

続きまして4番の案件1) 今まで食育推進ネットワーク会議でどのようなことをやってきたか、第1期から6期までの活動報告をさせていただきます。

(事務局) 資料2-1、資料2-2、資料2-3、資料2-4の説明

(事務局) 今までの資料についてご質問はありますか。それでは委員長、副委員長がたがだいま参りましたので、司会を変わらせていただきます。

(委員長) この度は皆様、委員をお引き受け下さりありがとうございます。この会議は区の食育推進事業に区民、並びに関係団体の皆様のご意見を反映させることと、相互に連携して食育を推進していくために、平成19年に設置をしたものです。十数年活動をしてきた中で検討いただきました様々なアイデアが、事業やハンドブック等の形になり今に引き継がれているという状況です。今は少子高齢化が進んだり、ライフスタイルも様々な変化が起き、区民の皆さんのニーズも多様化したり複雑になっております。それを全て満たすために役所だけが対応していくことが難しい時代になっており、区民の皆様との協働が非常に重要になってきてございます。その意味ではこの食育推進ネットワーク会議はもう十何年も前から力を合わせて、食育という事業を一つ一つ前に進めてきて、今期も同じように力を合わせて、一步でも事業を前進していければと思っております。また、練馬区はその特徴として農地が多いことがありますが、都心の近くにありながら地域を見れば農地がまだまだたくさん残っていて、新鮮な農作物を手にとって食卓にあげることができるという非常にまれな土地でございます。そういうポテンシャルを持っているまちだからこそできる食育もあろうと思っておりますので、今後皆さんと議論をしていければと思っております。そういうことで、あらゆる場面で思ったことを、ざっくばらんで構いませんので遠慮なさらずに言っていただき、いろいろなご意見を交わしながらより良い事業を作っていければと思っております。簡単ですがご挨拶とさせていただきます、会議の進行を進めさせていただきます。では次に第7期活動について資料3を用意していますので、事務局から説明をお願いします。

(事務局) 資料3説明

(委員長) 取組に関しましては、若い世代の取組をしてきているけれどもまだ効果が如実に表れてきていないので、まだここで手を緩める訳にはいかないということ、そしてねりまの食育応援店の事業も始めたばかりで継続して取り組んで参りたいということで、7期の活動についてはこの2点を中心のテーマとして活動をした

い、2つの部会を走らせていきたいということを提案させていただきました。もっと違うテーマにした方がいいのではないかというご意見があれば言っていただいて結構ですし、この通りこれから進めるべきだという賛同のご意見でも結構ですので、ご意見がございましたらお願いいたします。

(委員) 私は若い世代に直接アプローチするための検討、実施をぜひやっていきたいと思っております。小学校1～3年生の保護者の世代の方は「学びたい」とすごく思っている、忙しくてなかなか繋がりができないことが課題となっています。私たちは保護者の皆様に「手作りのものはすぐできるんだよ」ということを伝えるために、学童クラブの保護者会が終わった後の茶話会で手作りの簡単なピザを作って一口ずつ食べるアプローチを始めております。学童クラブでは、夏休みには週1回水曜日に必ずみんなでご飯を作るので、お母さんたちも頑張って月・火曜日は作って、水曜日はちょっと気を抜いて、木・金曜日を頑張ろうというようにとにかく励ましています。それが30代～40代保護者向け。子供たちには、ただひな鳥みたいに口を開けて待っているんじゃなくて、自分で出来ることをやっごらんとおっしゃっています。子供が自分でできるあまり危なくない調理を繰り返しているところです。それが浸透したのかつい4日前に、今年高校生になる子たちが楽しかったと言いに来てくれました。今でもみんなで作って食べた物がすごく思い出になるし、ここからのアプローチは様々ですが、そういう取組を手伝いたいなと思っておりますのでよろしくお願ひします。

(委員長) 30代といえども子どもの保護者もいるし、若い世代といっても幅がありますからどこをターゲットにするかとかご意見いただいて、こういう方々にはこういうアプローチをした方がいいのではないかと、ご提案や日頃感じていることを伝えていただければと思います。そうしましたらこの二つのテーマを中心に据えて取組を進めさせていただきます。この食育推進ネットワーク会議は1年で5回の会議を行いますが、全体会議と、委員の皆さんがいろいろな議論を取り交わす部会会議の2部の構成にしたいと思っております。部会については2つのテーマに基づいて2部会とさせていただきます、一つは前期に次いでねりまの食育応援店の普及啓発のための検討についてさらに深める、拡大するための検討を行っていくための部会。もう一方は、若い世代20～30代等への食育の推進について具体的なアプローチ、検討を行っていく部会ということで考えております。委員の皆様はどちらの部会での検討を希望するか、お一人ずつご意見を聞かせていただきますか。

(委員) 私は今まで食育ボランティアとして活動して参りましたので、若い世代の部会で活動させていただきたいと思っております。

(委員) 個人的には若い世代の方が興味深いと思いますが、力を発揮させていただけるところとしたら食育応援店の方に行ったほうが良いかなと思っております。

- (委員) 今、子育て支援でお手伝いをする時間がございます。ここでは育休中の若いママたちがたくさん来ている場所で食育事業をさせていただきました。私も若い世代の方への食育活動に参加させていただけたらと思います。
- (委員) 私は学生代表としてきているので、若い世代の部会を希望します。
- (委員長) そうですね、同年代ですからね。次は団体委員の皆様お願いします。
- (委員) 私は若い世代の部会を希望します。
- (委員) 私は前期に若い世代部会でした。食育応援の普及啓発については、自分がお店を利用する側として興味がある。どちらでもいいかな。
- (委員) JAとしては若い世代にもいろいろ発信をしていかなければいけないですが、応援店側としていただければ大変ありがたいです。
- (委員) 若い世代に直接アプローチするというのは教育だったり、親子の体験だったりということになると思います。20～30代の世代には、むしろ食育応援店、つまり練馬のお店が世田谷や代官山や渋谷とは違う魅力を持ってくことで若い人たちが興味を持ってくれると思うんですよ。非常に関連しているので、そこをリンクさせていきながらやっていくのかなと思います。私は今、12件の飲食店に納品させていただいて、子どもたちの活動についても親子での体験をやっていますので、どちらの部会も非常に興味はあるんですけども、やはり若い世代の、特に親子をターゲットにした食育の取組を進めていく目標を持っていますので、若い世代部会の方でチャレンジしてみたいと思います。
- (委員) 自分は食育応援店ですので、迷うところは非常にあります。若い世代に直接アプローチするために実は当店でも料理教室を行っております。その中で、若い方々の料理の知識の少なさに驚きを超えて愕然としているところがあります。今おっしゃったように、一つ一つ分けてではなくリンクさせていくということが大切だと思います。今ここでどちらかの部会というと非常に胸が苦しい。自分も決めかねているところなので、そちらで決めてください。
- (委員長) なかなか切り離せないというか両方大事だし、両方が相まって実りが多くなるというところがありますよね。これは絶対に二つに分けて会議を運営するの？
- (事務局) 合同部会として行ったこともあります。
- (委員長) けれどどちらかに所属してもらってことなの？
- (事務局) 具体的などころを詰めていきたい時には分かれていただいて、もし会議の出席者がその日によって偏ったりすると「こちらをお願いします」という時もございます。
- (委員長) 今日のご意見を伺ってあとは今日お休みの委員の方も含めて整理させていただきます。
- (委員) 保護者や若い世代の方で関わらせていただきたいと思いますが、例えば食育応援店と中学生や小学生が関われないかということもありますので、校長2名は1

名ずつで決めてください。

(委員長) では部会のメンバーについては事務局の方で調整をして決定させていただきます。それでは続いて案件の3) ねりま食育サミットについて、資料4の説明をお願いします。

(事務局) 資料4の説明

(委員長) これは2か月後の事業でございますので、概要はこのような形で決めていまして、今準備を着々と進めており、実施に向けて皆さんにご協力をいろいろお願いしたいということでございます。次に今後の会議日程、イベント等のスケジュールについて事務局の方で説明をお願いします。

(事務局) 資料5の説明

(委員長) その他ということで何かありますか。

(事務局) 健康推進課から練馬区禁煙医療費補助事業の説明

(副委員長) 治療ができた人の1割は止められたということです。治療するまでがなかなか難しいようで、このような補助を使って背中を押してもらって、やって良かったという人ばかりなので、ぜひ止めて欲しいなという方に渡していただければと思います。

(委員) 今日配られているチラシの世界都市農業サミットにつきましてご紹介をさせていただきます。今年の11月29日～12月1日まで、世界の都市農業者、行政関係、研究者を集めて、世界中で都市農業はどうなっているのかというディスカッションサミットをやることになっています。23区内には東京ドーム100個分くらい、約500ヘクタールの農地が残っているんですね。そのうちの200ヘクタール、つまり東京ドーム40個分、23区内の農地の40%が練馬区に在るという極めて特異な農地の多い地域です。昨年プレサミットを開催しまして、ニューヨークとロンドンから研究者と行政の担当部の方においでいただきましたが、今年はさらにジャカルタ、トロント、ソウルからお招きして、世界一の都市である東京の中で営まれている都市農業のディスカッションを行います。さらにチラシの裏面にあるいろいろなイベントも行います。コンサートや国際会議、毎年JAが中心になって練馬区と共催している練馬大根引っこ抜き大会を行ったり、マルシェや皆で農耕教室があつたりということで、練馬区の一つの個性として区民の皆様と一緒に盛り上げていければなと思います。ですから今回は食育サミットをやっていただけるというのは非常にありがたいことで、いろいろな連携を取りながら私ども実行委員もやっていきたいと思っております。

(委員長) ありがとうございます。サミットのチラシは後々よく見ていただいて、また本番の日にはぜひ会場においでいただければと思います。その他に何かありますか。

(委員) 先程食育応援店と若い世代とを切り離す事ができないというお話がありましたが、若い世代の応援って何だろうなとずっと考えていました。保育園では20代

～30代前半くらいの比較的若いお父さんお母さんたちに食育の大切さをいつも訴えています。若い学生は自分で作ることをやればいいですが、結構友達と外食をする機会も多いと思うんですよね。でも若い人は本当にお金が無いら、安いところというのがすごく大事だと考えているようです。それで、食育応援店のお店ってそれぞれ志があって、しかも食べれば美味しいし、だけど夜食事をしようと思えば学生にとってみると単価が高いんですよね。地元のいいお店で安く学生は食べられるっていうようなことができたらもっといいなと思います。保育園に通う頃からコンビニのお弁当を詰め直したような弁当を食べて、家の料理は買って来たお弁当を食べている。それで小学校の時には自分で作ることを教わってやれたとしても、大学生になればお金が無いらやっぱり安いチェーンに行って食べ物とは思えないような食べ物を食べて、ということが起きている。だったら本当に地域で美味しい、ちゃんとした料理を作ってくれる店で、安く食べられるという体験を積み重ねたらいいんじゃないかと思います。例えばこの食育応援店のマップの中に「若い世代を応援」みたいに書いてあったらいいと思います。お店の方々には利益にならないかもしれないけれど、大学生で来てくれたら学生用のメニューですごく安く、でもちゃんとしたものを提供しますみたいなことが書いてあったら、少しでもそれを見て「ああそっちに行こう」という大学生がいるんじゃないかと。そして来た大学生に何かチラシを配るとか、何回か来てくれると美味しいかつお節をプレゼントじゃないですけど、あるいはお父さんお母さんをご招待して、そのペアで息子と来てくれればお父さんお母さんにフルコースプレゼントしますよ、というようなことをすると、若い子たちが地元の店にもっと意識を向けて美味しいものを食べようっていう気持ちになるんじゃないかな。思いつきですが意見として言わせていただきます。

(事務局) いつも素敵なお意見をいただき、少しずつ形になって残っています。ご意見として頂戴して、食育応援店の方と詰めたいと思います。ちゃんとはんの事業で私たちは「100円あればごはんは食べられるよ」と話をすることもあります、普段は100円、そういう時にはお店でちょっと豪華に、というようなことも取り入れていけるかもしれないので、また一緒に考えていただければと思いました。素敵なお意見をありがとうございました。

(委員長) 他はどうでしょうか。

(委員) 江古田には大学が多いです。若い世代というと大学生もターゲットとしてどうかと前から思っていました。若者が行けるようなお店と連携出来たらすごく理想の何か生まれるのではないかと今思いました。

(委員長) 江古田は大学が3つあって、日大芸術学部の江古田のキャンパスは学部が増えるんですよね。だから学生さんが江古田で食べる場所が足りなくなるんじゃないかって噂もあります。そういう意味では、江古田ならではの地域性がある、

学食もあるし、界隈の飲食店で学生さんがロコミで行くようなお店もあるから、その辺はまた面白いことが考えられるかもしれないですね。ぜひ、そういうのも深めていただいて、大学とかと連携ができるようになるとまた広がりますね。

(副委員長) よく居酒屋で 1000 円でベロベロの酔えるというのもありますよね。同じように 1000 円で本当に腹いっぱい美味しいものが食べられると噂がたてばすごいですね。

(委員) 皆さんの意見を聞いていてちょっと怒りを覚えています。1000 円でどれだけのものが食べられると思いますか。食材が。農家さんに失礼ですよ。1000 円でどれだけの野菜を作るのが大変かっていうところを。確かにお金が無い学生もいるけど、そこをどうバランスを取っていくか、伝えていくかっていうことも大事だと思います。1000 円でお腹一杯食べたいっていう気持ちも本当に解るし、僕も協力したいんですけども、飲食店経営者さん、農家さんたちも食べていかなきゃいけないし。飲食店も物を売っていかなきゃいけない訳ですから、そこでどんどん安売りで叩かれていってしまうと、僕ら生きる道が無くなっちゃいますから。そういうところで行政が補助をしてくれるとかはいかがですか。例えば学生証をコピーしておけば補助を出すとか。全部飲食店に投げられちゃうと、食育応援店に加盟しているお店にしたら「おいおい」と思う方たちは多いかもしれない。ただいろんな方向はあると思います。考える事は考えてみます。

(委員) 欧米では野菜って基本的には比較的、富裕層の目指す食べ物なんですよ。それでお金が無い若い学生たちはジャンクフードを食べている。それは現実的に避けられなくて、田舎から出てきてひと月 10 万円の仕送りで 3 食食べてとなると、現実的には厳しいと思います。やっぱりケースバイケース、TPO とか少し整理整頓してどういう形で食育に結び付けていくかをやっぱりよく考える必要があるのかなど。レストランに安く提供してくれというのはちょっと厳しい。むしろ牛丼 298 円と違う価値があるということを認識してもらうことへの努力の方が大事だと思うんですよ。場合によっては、子ども食堂をちょっとおしゃれなお店で、若干支援も受けながら、この時は 500 円で提供できますよと。それで 1000 円じゃ出せないけどちょっと良いものを食べてもらうというようなことを考えていかないと難しいのかなという気がしました。

(委員) 私は昔から商店街の方々と組んで町の魅力を上げる活動をずっとやっています。商売をやっている方々は必死だから、安売りとか値段を下げるのは自分のお店の価値を下げる事もあるし、なかなか難しいことがたくさんおありだと思います。学生に機会を与えるために行政の補助があってもすごく良いかもしれません。お店側の方々もそこは教育だと思うんです。なぜ自分たちがこういうことをしているのか、利益はゼロかむしろマイナスだけど、このことがどういう意味があるかってことを若い人に説くことが大事で、若い人たちに意識が生まれて、そ

れがお父さんお母さんとか、大人になった時のことに繋がっていくはずだと思います。だからやっぱり食育応援店が、若い世代の大学生の応援とかやってみたいと思います。大学生は夜安くするとなるとお店の人たちに教育的な意義をよく解ってもらわないと、全然うまくいかないということは絶対ありますよね。けれどそういった志みたいなものを持ってもらうためのアプローチは大事なので、難しいですが何かしらのいい方法があればと思います。

(委員) これは区の方をお願いしたいことなのですが、私たちは地区区民館でこども食堂をやっている、個人情報の流失が恐ろしいので、子どもたちを守るためにも地域を限定する形をとっていました。その地区区民館が今度大改装工事に入って1年間使えないということで、他の児童館とかでお願いをしましたが、調理施設が全く無いんです。南田中児童館の工作室で中学生が晩御飯を作るときの指導にも入ってみましたが、いかんせん施設の目的が違います。私が学童クラブの委託をさせていただいているところで「その夜の部を使ってできないか」と何回もお願いした時には絶対だめだと言われました。保護者からは、こども食堂では地域の繋がりの中で 200 円で食べられて、ひと月に一回でもホッとするのがすごく良かった。またできないかというご要望がありました。今度はねりっこクラブの中で第2土曜日の午後に、レンジで簡単なクッキングをこども食堂の変形のバージョンでやろうと今思っているところです。地域で子どもを育てるというのが私たちのやり方で、大学生も高校生も来れることもできるので、施設を何とか解放していただいて、使わせていただく道筋はないものだろうかということをお願いしたいと思います。

(委員長) それはどこかの部署で相談とかされましたか。

(委員) 何回もしました。それで土曜日に一回やりましたが、昼の1時間とか2時間とかしかできませんでした。個人情報を守られる地域でやる前提でできたら、子どもたちも保護者も安心します。どんなに小さな子でも小学校にはみんな行けます。中学校と違って。中学にもお願いに行つて、卒業生も来るような形が良いですねと校長先生ともお話をさせていただいたこともあります。大学生になってからは自分の意思で選んで行くことができますが、小学生、中学生はやっぱり地域で守られながら、繋がりをこども食堂で持っていきたいなと思っています。これは施設がなければできないのでよろしくお願いします。

(委員長) それは後で相談しましょう。いろいろご意見を聞かせていただいて良かったかなと思います。それでは本日の食育推進ネットワーク会議は閉会とさせていただきます。どうもありがとうございました。